

【ACKグループ 全社一斉防災訓練を実施 円滑な初動対応実践】



ACKグループは2日、グループ各社の全拠点において、最大規模の地震を想定した全従業員参加（1800人規模）による「全社一斉防災訓練」を実施した。

社会インフラ整備に携わる企業として、地域の災害復旧にいち早く貢献するため、毎年「防災の日」の前後に、確実な事業継続に資するための全

社一斉防災訓練を実施している。

防災訓練に先立ち、発災直後の通信回線の輻輳対策としてPHSを新たに準備、仮設トイレの設置やゴミの分別ルール明確化、停電時に対する非常用電源を新たに準備し

初動対応の手順を詳細に定めた「BCP初動対応編」に沿って、「円滑な初動対応の実践」をテーマに実施。当日は、同社グループの全国約30拠点到現地災害対策本部を設置し、「従業員の安否確認」「初動対応における

## 全社一斉防災訓練を実施

### 円滑な初動対応実践

ACKグループ

たほか、負傷者救護の環境として、胸骨圧迫（心臓マッサージ）とAED（自動体外式除細動器）の使用訓練・写真を行い、事業継続計画（BCP）を充実させた。

今年の防災訓練は、事業継続計画（BCP）と

役割分担の明確化」「事業復旧時期の判断」「従業員の帰宅可否の判断」「帰宅困難者への備蓄品の配布」など、初動対応の一連の流れについて訓練した。

また、ACKグループ本社に災害対策本部を設

置し、グループ各社の災害対策委員会から報告される各種情報の対応・判断についても訓練した。

野崎秀則社長は「今回の防災訓練では、テーマとした『円滑な初動対応の実践』に一定の成果が得られた。今後は、今回の防災訓練の結果を元に幅広く課題を洗い出し、さらにBCPを充実する必要がある。特に、非常用電源については、より実践的に使用できるよう改善を行う」と災害対策本部会議で述べた。今回の防災訓練で洗い出された課題に基づき、引き続き確実な事業継続に向けて行動していく。